

審 議 会 会 議 録

会議名称	令和4年度第1回 伊達市環境審議会		
議 題	■諮問（1件） 伊達市環境白書について ■議事（1件） 伊達市環境白書（令和2～4年度版）について		
開催日時	令和5年3月8日（水）13時30分～14時30分		
場 所	伊達市役所第2庁舎 会議室1		
出席者	出席委員8名（欠席委員4名）		
	所管部課名	経済環境部環境衛生課 （経済環境部長・経済環境部参与・環境衛生課長・ 環境衛生係長・環境衛生係主査・環境衛生係 計6名）	
公開 非公開 の 別	■ 公開	傍聴者の人数	無し
	□ 非公開	非公開の理由	
【会議の概要】			
1 開 会			
◎審議会委員の自己紹介及び事務局の紹介。 ◎事務局より、委員定数12名中8名出席により会議が成立していることを報告。			
2 市長挨拶			
◎市長公務のため欠席につき、大和田経済環境部長より挨拶。			
3 役員選出			
◎審議会委員の改選に伴う会長及び副会長の選任。			
<質疑応答>			
■委 員：事務局に一任します。 ■委員一同：異議なし。 □事務局：会長につきましては、伊達市農業協同組合の松本委員を、副会長につきましては伊達市連合自治体協議会の佐藤委員にお願いしたいと思います。 ■委員一同：異議なし、了承。			
4 諮 問			
(1)伊達市環境白書について			
◎経済環境部長（市長代読）より会長へ諮問			
5 議 事			
(冒頭で、松本会長より就任の挨拶)			
(1)伊達市環境白書（令和2～4年度版）について			
◎会長挨拶の後、伊達市環境白書（令和2～4年度版）の内容を説明			

<質疑応答>

- 委員：最近港の周辺のごみが綺麗になったのですが、何か対策をしましたか。また、西浜町の海岸あたりにごみ等が散乱して何か対策をやられているのか。
- 委員：対策というわけではないですが、年に一回伊達の漁師さんを集めてごみ拾いをしたり、ボランティアの方が来て掃除をしたりということをしていただいております。
- 委員：港のところは、前は漁網等が散乱していたのですが、最近きれいだと感じたので、何か対策をしたのかなと思いました。
- 委員：汚れていれば都度、指摘等はさせていただいています。
- 委員：あと、市の方にも言いたいのですが、西浜町で釣りをしているとボランティアでごみ拾いをされている方がいて、ああいう人は貴重だなと思ひ感心して見ていました。市としても、年に一回そういう啓蒙活動ということでそういったことをやっていますということを知られた方が良いのかなと思っています。その方は、個人的にやってくれたので「いや関心だな。どうもありがとう。」と言いました。あのよう、市民が一つでもごみを拾うって活動を広げていくと街も綺麗になるのかなと感じました。
- 会長：そうですね、恐らく各事業所等でも環境については関心が高いだろうと思っています。以前から伊達市でも取り組んでいる、取り組みについて理解をして、広めていってあげることが今後役立ってくると感じています。これから先も、環境について持続的なことを考えればこういった取り組みをどんどん理解をしてもらえるような白書を作っていけばいいと思っています。
- 事務局：市でも市民総ぐるみ清掃の日・空き缶ゼロ運動というのをやっており、年2回、4月と9月に自治会や団体さんでごみ拾いをさせていただいております。環境白書にも掲載しています。令和4年度版でいきますと32ページの下段のほうですが、昨年は4月25日と9月26日に実施しまして、参加された方は春が2,548名、ごみの回収量が5,890kg、秋が2,184名の方に参加していただいております。
- 委員：先ほど海岸のごみの話が出たのですが、春秋の一斉清掃の時は海岸のごみ拾いも対象になっているのですか。
- 事務局：海岸ということであれば、令和4年度版環境白書の33ページになるのですが、一番上で「だてのまち美化サポート」事業、アダプトプログラムというものなのですが、こちらで事業所や団体で登録いただいて、その中で海岸の清掃をするという団体もあります。また、個人的なボランティアの方にボランティア用のごみ袋を提供しているのですが、市環境衛生課まで取りに来ていただいて海岸をボランティアで清掃ということをやっている方もいらっしゃいます。
- 委員：自治会の活動としては、海岸は対象外という話ですね。
- 事務局：その通りです。また、令和4年度版環境白書の40ページの下の方に海浜環境の保全という欄がありまして、こちらの方でボランティアによる清掃や、市の方でも北海道の補助事業である北海道海岸漂着物地域対策推進事業により、有珠海水浴場や市内の海岸の流木やプラスチック等のごみの回収を行っております。
- 委員：私のところに農作業をしている若い人達がいるのですが、その若い人たちが大阪や千葉、京都とか都会の子が来て農作業をしています。その中で伊達市の魅力がすごく気に入っていて、やはり自然環境が良いと。田舎でないけど都会でもない、住みやすい町だと言っています。それは、何故かという環境がすごく良く

て、湖水のようで対岸に駒ヶ岳が見えるという海じゃないような環境と、後ろの方には昭和新山、有珠山、若しくは羊蹄山が見える。そういう環境は他にない、すごく魅力的だと言っています。これを環境白書でどうやって生かされるかは何とも言えませんが、私にすればこの街はすごく環境に恵まれていて、それをどう維持するか。それを考えなければいけないと思っています。

■会 長：伊達市に関する評価ですね。他地域から来た人にはかなり魅力的な環境だろうという気がしています。今言われた通り、いつまでもそれを大切にしていきたい。それは昔から住んでいる地元の人々の取り組み方に懸かっていると考えています。そういった意味でも環境白書というのはここだけではなくて、いろんな方々に理解をしていただきたい。そのために見やすい形の報告書が一番妥当と考えています。

■委 員：令和4年度版環境白書の9ページの1人1日当たりのごみの排出量の推移というところで、家庭系のごみが令和元年から令和2年、3年と増加傾向にあるのですが、何か原因があるというのを市の方で把握しているのでしょうか。

□事務局：令和2年、3年度でごみ量は増えていたのですが、恐らくコロナ禍で片付けをしていた方がたくさんいらっしゃると思います。それで家庭系のごみが増えているのではないかと考えています。実際に令和2年と思いますが、ゴールデンウィーク周辺に一気にごみ量が増えたことがありました。そういうこともありましたので、ごみ量が増えたのではないかと考えています。

■委 員：直接、環境白書に大きく関わることではないかもしれませんが、伊達市の人口が大幅に減ってきているっていうように見ておりまして、環境白書のページで言いますと4ページですね。やはり、少しずつ人口が減っていくというのは、日本の人口も減っていることも起因しているかもしれませんが、やはり都会に人が流れていく影響であると認識しております。令和4年度版環境白書を見ますと、令和3年度に人口が急激に減っているかのように見ておりましてこの辺の影響等、なにかあったのかというところをご存じであれば教えていただきたいというのが一点です。また、青空フリーマーケットの開催がコロナ禍のなかで2年間休止になっていると思いますが、令和4年度も開催できなかったのです。令和5年度に実施する予定があるかどうかを教えていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

□部 長：人口の関係につきまして、はっきりした要因は我々も掴んでいませんが、確実に言えることは出生者数が減少してしまっていて、昨年は150人を切っていたと思います。また、団塊の世代の方々が亡くなられる世代になってまいりまして、そういう自然減の部分はかなりあるというところです。あと先ほどご指摘いただいたように若者・子供がなかなか定着しないということが総合的に出てきている状況だろうと思っております。この傾向はまだしばらく続きそうだという、いわゆる人口動態を研究している研究所からの報告ではそのように聞いております。

□事務局：青空フリーマーケットですが、コロナ禍ということでこの2年間開催出来ていませんけれど、実は主催が伊達消費者協会なのですが毎年打ち合わせをさせていただいて、コロナということで中止とさせていただいていたのですが、消費者協会はやる気ですので、また打ち合わせをしながら協議しながら進めていきたいと考えています。

■委 員：環境白書37ページの有害鳥獣の駆除についてなんですが、私も家庭菜園をやっていますが、農家の人は有害鳥獣による被害は大変なんじゃないかと思っています。

私は個人的にやっている菜園を鹿にやられたで済んでいるが、農家の人は生活がかかっているなかで、伊達市として駆除の対策や補助金のようなことを積極的にやってほしいなど考えているのですが、それについてはどうなのかお聞きしたい。

□事務局：市では有害鳥獣の協議会を作って、主に鹿とかアライグマの駆除をしています。また、くくりわなや囲いわなの貸出と、電気柵を農家の方からの要望があるところに貸し出しという形で防除に努めています。電気柵や鹿ネットといったものは国からの補助金がありまして、それを活用して希望者に設置してもらっているという状況です。

■委員：昔からみたら鹿、アライグマも増えたしキツネもやっぱり増えたと本当に思います。私が小さい頃は野良犬がいましたが、今はほとんどいないです。やっぱりそれも一因にあるのだらうと思います。自然のバランスが崩れて鹿やアライグマ、キツネが増えるのは当然だし、それに対して何をすればいいのか。前は鉄砲を打つ人がいてそれなりに効果がありましたが、警察の監視の目があるので鉄砲は持てないし、維持するにもお金がかかる。そういうのもあってくくりわなで何とかしているのが。有害駆除で鹿やアライグマ等の駆除数が増えている実績はありますが、それ以上に鹿やアライグマが増えているかもしれないですけども。そんなイタチごっこでこの先ずっと続いていくような気がするし、我々も負けないように苦肉の策で何かやらなければならないし、それを行政・農協を通してやっていくしかないのではないかと考えています。それと、どうしても行政から国の方に訴えてほしいのは、鉄砲の免許についてももう少し規制を緩和して欲しいと思います。今の若い人は鹿等を駆除するのはみんな嫌がりますが、中には大丈夫な子もいます。欲を言えば鉄砲も持ちたいけどお金がかかるから持てないという人もいます。やはり、そういう人を大事に育て上げて鉄砲を持つ人を増やしていくことも良いと思います。自然のバランスが崩れて鹿やアライグマが増えたのは事実だと思います。

■会長：確かに有害鳥獣の部分については、農協としても役所をお願いして先ほども言いましたように、あくまでも補助金が出てくるのは国からですので、補助制度を利用しながら、とにかく自分の生活を守るためには人を頼りにしていたのではどうしても有害鳥獣の部分に対しては効力が薄いので、自分のことは自分でというのが大事なのだと思います。銃を持つことに関しては、狩猟用の免許は北海道の管轄ですのですぐ取得できるのですが、銃を持つ許可を出すのは公安委員会です。そちらの方が中々厳しいです。それと、銃を持ってしまうと維持費と言いますか、かなり色々なことをしなければならないというのが、若い人達にとって少々厳しいと感じています。私は、まだ熊にお目にかかったことはありませんが、年に2・3回、市から情報が流れてきますので、そのうちに人の目につくようになると危惧しています。そのために事前に色々な形をもってできるところから取り組んでいくのが良いと考えます。私は、農家でくくりわなの狩猟免許を取得してから10年近くになります。その10年間でだいたい今年の冬で、鹿を約100頭ちょっと捕獲していますが、それでも減らないですね。

■委員：伊達市では電気柵を使っている人は結構いるのですか。

■委員：農家の方でもその補助事業を利用して、我々の地区や山林周辺の方では電気柵で畑を囲っている農家は軒もいます。我々の方も、半分ぐらいの農家は電気柵を使っています。やはり、補助事業を利用していないと、鹿にやられて仕方

ないでは済まないのです。鹿も一度キャベツ等の野菜の味を覚えてしまうと食べていきます。昔は、そんな食べなかったのですが。あと、アライグマがハウスでトマト等を生産している農家の所に入ってくることも結構あります。補助事業等を利用してハウスの周りに電気柵を設置する生産者も結構います。

■委員：電気柵の電気料は、農家が負担するのですか。

■委員：いいえ。太陽光なので電気代はかからないです。設置だけ自分でやる形です。

■委員：エゾシカを結構駆除しているけど死骸はどのように処分しているのか。

□事務局：食肉にしている方もいますし、他の環境への影響のないように埋め立てる方もいます。あとは、最終処分場への自己搬入です。

■委員：令和3年度は結構な頭数ですね。

□事務局：そうですね。令和3年度の数字で行きますと鹿は駆除頭数 1,420 頭です。この何年かで大幅に増えています。令和元年度は、793 頭でしたがそれが令和2年度に 1,156 頭になり、令和3年度に 1,420 頭ということで、大幅に増えてしまっています。

■委員：結構、捕獲していますが増えているっていうのが現状ですし、町の中でも鹿が出てきているっていうのも現状です。この間も、伊達警察署の前で鹿が車と衝突したのを目撃していますし、やはり鹿が確実に増えている。農家だけの問題ではなくて、一般の人たちにも結構影響が出てくるのではないかと思います。やっぱり、それだけもう身近な問題になっているのではないかと感じています。

■委員：関係ない話かもしれませんが、先ほど市民が徐々に減っているとのことで、市民が減っているのは仕方ないというような考えですが、それをどうやって減らさない方法を行っていくかというのでも考えなければならぬのだと感じています。環境を維持するには人の手も必要だと思います。家が廃墟化している等、人がいなくなることでそういう問題も出てきますし、人口を減らさないためにどういうようにするか。今、商工会や銀行などの考えている一般の人もいる中で言いたいのは、若手の働く場所をどうやって増やすのかということが問題で、その問題をもう少し考えてもらいたいと感じています。特に農業も高齢化が進んでいて、農家戸数が減っているという問題があります。高齢化が進んでいって農家戸数が減っていくと、家族経営での農業では限界があります。なので、法人化していく方向しかない部分もありますが、法人化すると人を雇うことになります。家族経営であれば家族でお金を回せますが、会社にお金があったらお金を貸してくれとはいかないので、農家の場合は家族経営が利益になりやすいです。農協や市でも新規就農に対して募集をして、一生懸命やっています。でも農家だけそういう訳にはいかないのです、他の業種等も含めて何とか若手の働くような場所を打ち出してほしいです。環境にどのように結びつくかは分かりませんが、その点についてお願いしたいと思っています。よろしくお願いします。

■委員：若手が働くところが欲しいと言われましたが、働くところは沢山あります。しかし、働く若手がないのです。伊達開来高校3年生の男子で就職を希望する子が大体 10 人程度で、後は進学希望です。その就職を希望する子達も、自分の希望する職種を受けて不採用になった場合は専門学校に行ってしまうので、ほとんど地元を出て行ってしまいます。私達のような建設業は比較的今の若手から敬遠される職種ですが、毎年9月頃から近隣の高校全てを2回ほど訪問しても1人ぐらいしか採用できないです。今、建設業もそうですし、ガソリンスタンドですとかそういったところも若手がない。後、お嫁さんがいない。今、北海道銀行とか

で単身の経営者の会社に奥さんをマッチングさせるサービスを始めています。そのぐらい結婚観がなくなってきていて私の会社でも 40 歳で結婚していない者も何人かいます。恐らく、歯止めが利かなくなっているのではないのでしょうか。これから機械化を進めていかなければ、今までのよう方法では、恐らく私たちの会社も続かなくなるというのがどこでも危惧している部分で、本当に若手がいな

■委 員：若手がいなは少子化が進んでいるからだ。我々の業界や運送業界もそうです。どこもすごく大変で若手がいな。でもそういう中でもどうやっていくのか。仕方ないで終わらない方法があればと思います。そうでなければ、この街の維持できる部分が維持できなくなるとはないかというのが大きなところではな

■会 長：そうですね。これだけ恵まれた環境の中で過ごしていることを考えますと、自然に戻せばいいというわけではなく、人が自然の中に手を入れてこの環境を作り上げてきたという経緯があるということは、最終的には人が最後に責任を取らなければ環境を維持できないと考えていますので、そういった意味ではこれから改善について考える余地もあるのではないかと思います。素敵な意見等をいただきましたので、次回の審議会に繋いでいきたいと思

6 その他

◎事務局より、次回会議日程（予定）について説明

7 閉 会